

# ことばの 学び

三省堂 国語教育

a new way  
of learning  
Japanese



平成18年度版  
『現代の国語』『現代の書写』  
教科書特集号Ⅲ

ワンテーマ誌上交信 「ことばと文化」

金田一秀穂 パックン



特集

## 「国語科書写」の 学びを創る

vol. **10**

# ③ 新しい学びのサイクル

①

教科書から  
ひろがる学び

②

対話する  
教科書

④

テキストから  
プログラムへ



学習のまとめがゴールになるのではなく、  
再び新しいスタート地点となるような円環型の学びを実現したい。  
学校での学びが、地域や社会と循環して機能できるような  
ネットワークを実現したい。

…三省堂『現代の国語』『現代の書写』は、そんな教科書をめざします。

平成18年度版  
『現代の国語』  
『現代の書写』  
教科書特集号  
Ⅲ

# ことばの 学び

三省堂 国語教育  
a new way  
of learning  
Japanese

vol. **10**  
CONTENTS

+表紙イラスト  
藤川亜矢  
+デザイン  
石川愛子  
+DTP制作  
田頭ひろみ



平成18年度版  
『現代の国語』



平成18年度版  
『現代の書写』

(イラスト：たむらしげる)

## ●ワンテーマ誌上交信

「ことばと文化」 金田一秀穂 バックン …………… 2

## ●国語教育のトピックを検証する

「読解力」の低下をどう考えるか 高木 展郎 …………… 4

## ●特集

# 「国語科書写」の学びを創る

これからの書写の学び 松本 仁志 ……………	6
硬筆を中心として学習課題に取り組む 谷口 邦彦 ……………	8
硬筆につながる毛筆の学び 小西 憲一 ……………	9
手書きの文字の表現力を知る 木村 まり子 ……………	10
筆記具の持ち方を再考する 小林 比出代 ……………	11
平成18年度版『現代の書写』 基本コンセプトと教科書のしくみ ……………	12
「国語科書写」への理解を深めるために ……………	14

## ●教室で読む 3

古人との対話を図る古典の授業  
松友 一雄 …………… 16

## ●ちょっと気になるカタカナ語 3

「コーチング」「ディスコース」  
「アイエスオー」「ユニバーサルデザイン」…… 20

## ●平成18年度版『現代の国語』『現代の書写』 SNP

学習指導書・教材 …………… 22

## ●学びを開く 一北から南から— 3

若返りする教育現場  
矢内 忠 …………… 24

## ●読み語りの出前 3

「絵本で比較言語学のお勉強をした」大学生  
後路 好章 …………… 25

# ことばと文化

## 所変われば品変わり、ことば遣いは難しい

来日した外国人に、「いつ日本に来たんですか」と聞くのは普通のことだと思う。相手がどのくらい日本にいるかによって、次に聞くべきことがいろいろ違ってくる。昨日来たというのであれば、「お疲れでしょう」と言いたいし、もう一年くらいいるのであれば、例えば「日本ではどんな仕事をしているんですか」と聞くだろう。会った最初から、「いつ帰りますか」と聞くこととはないだろうと思う。失礼である。

ところが、所変われば品変わるで、ベトナムへ行くと、会って最初に、「いつ帰りますか」と聞かれるのである。日本で教えていた元学生と現地で会うのはとても楽しいことである。それなのに、その学生からも、「わあ、先生、よくいらつしゃいました。先生いつ帰りますか。」と聞かれて、少し驚く。来ちゃ悪かったんだろうか。

何となく気づまちなお客が家に来たときには、「あのお客さんいつ帰るの。」などとこつそり聞いたりする。だから、早く帰って欲しいということか、と尋ねると、ベトナムの人はきよとんとする。大切なお客さんが来たのであり、いつまでいるのかがわかれば、その間の

都合のつく時間にいろいろ歓待できるだろうと思うからだという。歓迎の気持ちを表すものであり、そんな失礼な意味は全然ないという。

考えてみると、確かに、いつ帰るかを聞くことは、とても気持ちのこもった質問である。いつ来たのかを聞くのは、その場しのぎの質問である。沈黙しているのはよくないから、話し始めのきつかけとするための、あまり心のこもっていないとはいいたいことばである。それに比べて、いつ帰るのかを聞き、それをもとに何をしてあげられるかを考えることは、かなり親切なことであるといえるだろう。

ちよつとしたことばで、失礼であると思っても、あまり利益がない。慌てずに、じっくり理由を聞いてあげれば、無駄な誤解を避けることができる。ただ、「いつ帰るんですか」と、直接的なことばで聞かないほうがいい。「いつまでいられるんですか」と聞く方が誤解されないだろうと思う。ことば遣いは難しい。



### 金田一 秀穂

〔きんだいち ひでほ〕 杏林大学外国語学部教授。ベトナムなどで日本語教師の指導も行う。著書に角川 one テーマ新書「新しい日本語の予習法」など。



## パッくん

〔パッくん〕93年来日。97年にパッくんマッくんを結成。  
「ジャスト」(TBS系列)や「英語でしゃべらナイト」(NHK)  
などのレギュラーを持つ。<http://www.havmercy.co.jp/>

日本語を学ぶことは日本文化を学ぶこと。いくら文法を覚えても、漢字を暗記しても、「コノビントロハシンセンデスカ?」と繰り返し発音を練習しても、文化を解せずしてことばを使いこなすことはできない。わかりやすい例は敬語。日本語の先生に「日本語には尊敬語、謙譲語、丁寧語という敬語の種類があり、自分と話し相手の関係により使い分ける」と言われたとき、くらくらしした。英語にも丁寧な言い方があるが、系統だったシステムはない。だから常に互いの立場を意識してしゃべることは新鮮だ。この「新鮮」というのは「めっちゃくちゃ面倒くさい」という意味。数年前、そのシステムが頭に入っていなかったほうが初めてお笑いライブに出演したとき、渡辺正之さんと同じ控え室だった。

新米芸人のほくは、自身の無知さゆえに、そのライブのプロデューサーで、お笑い界の大御所でもある渡辺さんの隣に座り、足を組み、ソファの背もたれに

片腕をかけて「ちわわ。今日はコントやるの?」とため口で話しかけた。ほかがこの世界で何とか生き残ってるのは、ひとえに渡辺さんの人のよさのお陰。やはり日本で使われているこのシステムは、重要かつ有効なものだ。あのときのことを思い出すと、我ながらひやひやする。

敬語を学ぶ過程で日本文化や日本人の考え方が理解できるかもしれない。例えば食べ物。茶・飯・酒は、御茶・御飯・御酒と「御」をつけるが、これは特別な存在であることを表しているのかも。味噌汁の丁寧語である「おみおつけ」なんて「御」が三つも!「御御御付」! どれだけ大切なんだ! ほかたち一般的なアメリカ人が、調理法について取り組むレベルは、日本のそれと比べて著しく低い。だからほかたちが輸入したのは「お寿司」ではなく「スシ」。やたら変なものが乗ってる、不思議な食べ物。彼らアメリカのスシ職人は、ことば遣いも調理法も、とにかく大ざっぱなんだ。アメリカでおいしいお寿司を食べるためにも、彼らはまず、敬語を学ぶべきだね。

**文化を解せずしてことばを  
使いこなすことはできない**

# 1 PISA二〇〇三年 調査に見る課題

二〇〇四年十二月七日に【PISA (OECD生徒の学習到達度調査) 二〇〇三年調査】(義務教育修了段階の十五歳児を対象とする調査)の結果が公表された。この調査は、知識や技能を、実生活のさまざまな場面面で直面する課題にどの程度活用できるかを評価することを目的として行われた。

この調査は、二〇〇〇年にも読解力中心に行われ、今回は二回目である。今回は、数学的リテラシーを中心に、前回と同様に読解力、科学的リテラシー、さらに問題解決能力についても調査が行われた。

これらの調査によって、科学的リテラシー、科学的リテラシー、問題解決能力については一位グループ、読解力については、OECD平均と同程度(十四位)で、

前回二〇〇〇年調査の二位グループ(八位)であったことよりも、有意に低下していることがわかつている。

この調査結果から、読解力の低下が問題にされるようになった。

読解力について、得点によって高い方から低い方へ二〇〇〇年調査と同様にレベル5からレベル1未満の六段階に分け、各レベルの生徒の割合をみると次のような結果となっている。

●わが国の生徒の割合がOECD平均よりも多いのは、レベル5、レベル4及びレベル1未満である。また、わが国の生徒の六十%以上は、少なくともレベル3以上に位置している。

●右のことは、上位の生徒の成績は、OECD平均よりも高いが、下位の生徒は、OECD平均よりも低いという点であり、このことは、日本の生徒の全体的な読解力に関する格差が広がっていることを示している。

検トビツクをの  
国語教育の  
検証するの

## 「読解力」の低下を どう考えるか

高木 展郎 横浜国立大学

生徒の割合が約八十%と際だつて多く、韓国、カナダがこれに続いていく。また、フィンランドはレベル1以下のレベルの生徒の割合が約六%と際だつて少ない。

特に、問題となるのは、次の結果である。

●わが国の得点分布は上位5%、

上位十%、上位二十五%に位置する者の得点は比較的上位にありOECD平均よりも高いが、下位十%、下位5%に位置する者の得点は比較的低い方にありOECD平均よりも低い。

右のことは、上位の生徒の成績は、OECD平均よりも高いが、下位の生徒は、OECD平均よりも低いという点であり、このことは、日本の生徒の全体的な読解力に関する格差が広がっていることを示している。

このことから、国語科教育においても、読解力をいかに育成していくか、ということが今日的な課題として浮上している。

## 2 PISA調査における 「読解力」とは

【PISA二〇〇三年調査】で行われた読解力の(定義)は、次のように示されている。

○自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力。

また、読解力の枠組みを、次の三つの側面によって分け、それぞれに問題を作成し、測定している。

・読むテキストの形式…  
(内容または構成)

PISA調査では、散文を「物語」

「解説」(「論説」)「論証」(「推理」) (連続型テキスト)に分けた。さらに、一覽表、書式、グラフ、図などの非連続なテキストも取り入れた。

・読む行為のタイプ…(プロセス)  
PISA調査で測定したのは、テキスト(文章と図表)を全般的に理解して(情報を取り出し)「解釈」し、自らの知識に関連付けてテキストの内容と形式について(熟考し)、(自分の意見を論ずる)習熟度である。(ここでは、読むために学ぶ)ことよりも、学ぶために読む)ことに焦点を当てている。

・テキストが作成される用途、  
場面、状況…

例えば、私的な手紙や小説や伝記は(私的な)用途で、公式の文章は、(公的な)用途で、マニュアルや報告書は(職業的な)用途で、教科書やワークシートは(教育的な)用途で用いられる。

さらに、この読解力調査の(ねらい)は、次のようになっている。

○義務教育終了段階にある生徒が、文章のような「連続型テキスト」及び図表のような「非連続型テキスト」を幅広く読み、これらを広く学校内外のさまざまな状況に関連付けて、組み立て、展開し、意味を理解することをどの程度行えるかをみる。さらにその(特徴)として次の四点をあげている。

①理解するだけではない。  
↓テキストに書かれた情報を理解するだけでなく、「解釈」し、「熟考」することを含んでいる。

②読むだけではない。  
↓テキストを単に読むだけではなく、テキストを利用して、テキストに基づいて自分の意見を論じたりすることが求められている。

③内容だけではない。  
↓テキストの内容だけでなく、構造・形式や表現法も、評価すべき対象となる。

④文章だけではない。  
↓テキストには、文学的文章や説明的文章などの「連続型テキスト」だけでなく、図、グラフ、表などの「非連続型テキスト」を含んでいる。

### 3 PISA調査を受けての対応

このPISA二〇〇三の結果を踏まえ、文部科学省は、「今後の改善の方向」を次のように示している。教科国語を中心としつつ、各教科や総合的な学習の時間等を通じて、次のような方向で、改善の取り組みを行う必要がある。

① **テキストを理解・評価しながら読む力を高めること**

読む力を高めるためには、テキストを肯定的にとらえて理解する（「情報」の取り出し）だけでなく、テキ

ストの内容や筆者の意図などを「解釈」することが必要である。さらに、そのテキストについて、内容、形式や表現、信頼性や客観性、引用や数値の正確性、論理的な思考の確かさなどを「理解・評価」したり、自分の知識や経験と関連付けて建設的に批判したりするような読み（クリティカル・リーディング）を充実させることが必要である。

特に授業の中では、なんのためにそのテキストを読むのか、読むことによつてどういうことを目指すのかといった目的を明確にした指導が重要である。

② **テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること**

読解にあたっては、単に読んで理解するだけでなく、テキストを利用して自分の考えを書くことが求められる。テキストの内容を要約・紹介したり、再構成したり、自分の知識や経験と関連付け意味付けたり、自分の意見を書いたり、論じさせたりする機会を設けることが重要である。

特に、「自由記述（論述）」に不慣れた生徒には、授業のまとめのときに、自分の考えを簡潔に書かせるなど日常的な授業の工夫が重要である。

③ **機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること**

読むことについては、「朝の読書」の推進を含め、読書活動を推進する

こと。その際、文学的文章だけでなく、新聞や科学雑誌などを含め、幅広い範疇の読み物に親しめるよう、ガイダンスを充実することが求められる。

授業の中で、自分の意見を述べたり、書いたりする機会を充実すること。その際、自分の経験や心情を叙述するだけでなく、目的や条件を明確にして自分なりの考えを述べたり、論理的・説明的な文章に対する自分なりの意見を書いたりするなど、機会を意図的につくっていくことも大切である。

今回のPISA二〇〇三年の読解力に関するテスト問題は、三年後に同じ問題で調査をするために公開されていないが、PISA二〇〇〇年に行われた調査問題は公開されている。この公開されている問題を見ると、日本の国語教育でこれまで行われてきたいわゆる読解問題とは、その内容が異なっていることが認められる。

そのことは、これからの時代に求められる学力観の提示であり、これまで日本の国語の授業で行われてきた読解ということに対するパラダイム転換が図られなくてはならない、ということを示している。

### 4 これからの時代に必要「読解力」とは

これまでの国語科の授業におい

て、読解力というと、書かれている内容を読み取る、という受容としての読みが中心であった。しかし、このPISA調査での「読解力」に示されたものは、そこに、受容のみでないさまざまな「読解」の要素を含んでいる。それは、今日、日本の学校でも行われ始めた「確かな学力」としての「読解力」でもある。

文部科学省が定義する「確かな学力」とは、「知識や技能はもちろん自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたもの」である。

OECD諸国をはじめ、世界中で今、これまでの受容としての学力観から転換しようとしている。地球規模で学力観が変わろうとしているのである。

教科書も、それに合わせて変わらなくてはならない。平成十八年度版の『現代の国語』は、その先駆となる構成と内容を示している。



【たかぎのぶお】 横浜国立大学教授。主な編著書に「ことばの学びと評価—国語科授業への視角—」「ことばが育つ学びのプラン」（三省堂）『国語科教師教育の課題』（明治図書）など。

# 「国語科書写」の 学びを創る

国語科の学習指導計画に、書写の授業をどのように組み込んでいくのか。  
「文字をよりよくしたい」という学習者の願いにどうこたえていくのか。  
三省堂が今回初めて刊行する書写教科書『現代の書写』は、  
多くの方々との対話を通して新しい書写の学びを提案します。

## これからの書写の学び — 授業パラダイムの転換

松本仁志  
広島大学

### 1 おける 書写の授業に パラダイム転換

「硬筆・毛筆・手本・加朱添削・清書・墨・一斉教授形態」

書写の授業には、これらのキーワードからイメージされるような「見方・考え方を共時的に規定する概念的枠組み（パラダイム）」が存在する。こうした書写の授業パラダイムは、「手習い」の時代から受け継がれてきた文字の学びの「伝統」によって形成されているところがある。

それでは、書写の授業における「伝統」とはいったい何だろうか。「墨・毛筆・半紙・硯」等々の用具・用材を使用することだろうか。「説明・示範・毛筆練習・加朱添削・清書」という学びのスタイルだろうか。確かにこれらも形のうえで伝統といえるが、決して本質ではない。書写の授業にお

ける伝統の本質は、日本語の文字を「正しく」〈整えて〉「読みやすく」〈速く〉書く力の育成、工夫して書くことを支える洗練された文字感覚の育成にこそあるのではないか。自戒をこめていうならば、伝統的な授業様式に慣れてしまつて、学びの本質を見失いがちになっているのが今の書写の授業ではなからうか。

書写力・文字感覚の育成は、何よりも今生きる子どもたちの実態からスタートしなければなるまい。「子どものやる気を引き出せない」「成果が出ない」「授業時間が確保できない」等々、先生方の率直な悩みをよく耳にするが、伝統の形式的な面からいったん離れて、今の子どもたちにとってどのような授業が効果的なのかを柔軟に考えてみれば、アプローチは必ず見つかるはずである。

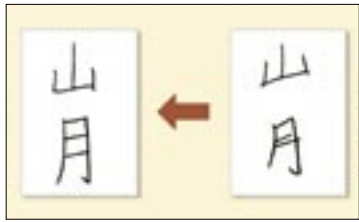
そこで、書写の授業パラダイム転換に関する四つの視点を次に提案したい。



## 2 『現代の書写』における 授業パラダイム 転換への提案

### ① 一人一人の文字を育てる

書写の授業パラダイム転換のキーワードの一つは、「個々人の文字の成長」である。いわゆる手本があって、それに全員で近づいていくという学びのスタイルではなく、次のイメージのように、学んだ書写技能を自分の文字に生かしながら成長させていくという、個人重視の学びのスタイルを提案したい。



1年「自分の文字をよりよくしていこう」  
学習者自身が、学習材の「学習のねらい」を理解し、そこで学んだ書写技能を生かして自分の文字を成長させていく、という学びのスタイルを提案している。

『現代の書写』では、いわゆる手本を「字形例」として別ページに後掲し、学んだ技能を一人一人が自分の文字に生かしていく過程を大切にしている。

### ② 思考活動を重視した学び

次のキーワードは「思考活動の重視」である。書写の場合、反復練習が重視され、学びにおける思考活動が重視されない傾向があるが、思考によって書写技能の理解は確かになり、同一・類似構造の文字への応用も容易になるのである。

『現代の書写』では、思考活動を大切にしたい流れを各学習材ごとにサイクル化している。各学習材の始めに「考えよう・話し合おう」を位置づけ、思考活動をおして典型字例に内在する書写技能に気づかせていく。次にその気づきを生かして書いていく、という流れである。これならば、書写指導がやや苦手な先生も、子どもとともに考えながら学んでいけるであろう。

### ③ 日常使用する硬筆を中心とした学び

三つめのキーワードは「硬筆の学習材による日常化の徹底」である。国語科書写の目標が書写力の日常化にある以上、主役は硬筆である。毛筆は、書写技能への理解を深める効果はあるが、授業の前面に出しすぎると、学びに対する子どもたちの目的意識を日常から乖離させてしまう。

『現代の書写』では、まず硬筆の学習材で学習課題を把握し、次に硬筆の学習材と毛筆の学習材で書き確かめて、さらに硬筆の学習材で定着・応用を図るといった流れを、

学習量の負担に配慮しながら組んでいる。毛筆の学習材は字形例として後掲しているが、毛筆の学習材を軽視しているわけではなく、量・内容ともに充実させている。

### ④ ささまざまな授業形態への配慮

最後のキーワードは「柔軟な授業形態」である。『中学校学習指導要領』では、国語の授業時数における書写の授業時数を、一年「十分の二程度」、二・三学年「十分の一度」としている。なかなかその確保が難しいのが実情であるが、全くやらないというのでは、文字の上達を願う子どもたちに答えることはできない。

『現代の書写』では、このような実態に対応するために、各学校の実情に応じて、例えば十分程度の時間でも技能定着への道筋がつけられるような、柔軟な授業形態が仕組めるように学習材を構成している。トータルで「十分の一」「十分の二」に到達すればよいという発想である。また、『現代の国語』と活動を共有できる学習材も取り入れて、時間的な負担に配慮している。



〔まつもと ひとし〕 広島大学大学院助教授。初等カリキュラム開発講座に所属し、文字学習と書写学習を融合させたカリキュラムの開発に取り組んでいます。

# 硬筆を中心として 学習課題に取り組む

## 学習課題の見つけ方

自分の書き文字に自信のある中学生は少ないのではないかと。私は、今までの指導経験から、このような印象をもっている。というのも、こんな字でいいのだろうか、こんな書き方でいいのだろうかと迷いながら書き続けている学習者を教室で数多く見てきたからである。なかには、「字なんか読めればいい」と考えている学習者もいた。これは、課題文字そっくりを書くというこれまでの書写学習と関係があるのではないだろうか。

課題文字そっくりに書くという作業には、  
・学習課題がはっきりしない

## 谷口邦彦

安田女子大学



〔たにぐちくにひこ〕広島大学附属中・高等学校教諭を経て、03年度から安田女子大学勤務。主に、書写書道の学習内容、方法の改善に関する提案を行っている。



1年「文字の部分と部分の関係を考えよう」  
それぞれの学習材は、硬筆学習が活動の中心となり、必要に応じて毛筆を取り入れることのできる構成となっている。

自分の文字と比べやすい。最終の「確かめ合う」段階でも硬筆を使い、自分の文字がより読みやすくなっていることを確認する。このように、「現代の書写」で学習した学習者は、よりよく改善された自分の文字を、自信をもって書いていけるようになるに違いない。

・ほかの文字に応用がきかないなどのマイナス面がある。書写学習にも学習課題はあるので、その課題に気づき、解決していくという学習過程をとらなければ、書く力の向上は望めない。

では、「学習課題への気づき」とは、どのようなもののだろうか。文章を書いて、自分の文字は読みにくいし何か変だぞと思ったとき、読みにくさの原因はいつか挙げられない。例えば、文字の大きさがそろっていない・文字間がそろっていない・行の中心がそろっていない、などである。『現代の書写』では、「考える」↓「話し合う」段階で、これらの課題を導き出すことができる。さらに例題で「気づきを生かして書く」。考えながら書くことは、自分の字をよりよく改善していくことに自然と生かされる。

書きやすく読みやすい文字に改善していくことは、伝え合う力をはぐくむ国語の学習には欠かせない。『現代の書写』では、硬筆学習を活動の中心に据え、課題に気づく段階から一貫して硬筆を使用する。もちろん、必要に応じて毛筆を取り入れることができるように配慮されている。例えば「文字の部分と部分の関係を考えよう」（一年）の、漢字の左右・上下・内外の組み立てをとらえる学習は、まず硬筆文字で考え、話し合う。途中で毛筆を使い、大きく書いて確かめることもでき、学習者の実態に合わせて学習が進められる。

硬筆を学習活動の中心に据えると学習前の自分の文字と比べやすい。最終の「確かめ合う」段階でも硬筆を使い、自分の文字がより読みやすくなっていることを確認する。このように、「現代の書写」で学習した学習者は、よりよく改善された自分の文字を、自信をもって書いていけるようになるに違いない。

# 硬筆につながらる 毛筆の学び

## 毛筆を有効に利用しよう

漢字やかなは、主に毛筆によって生まれ発展してきた文字である。その書き方は、毛筆を使用することで理解は深まる。しかし国語科書写は、毛筆技能の習熟を最終的な目標にしているのではない。常に硬筆での日常化を意識する必要がある。

『現代の書写』では、硬筆→毛筆→硬筆という流れを明確にしている。例えば、一年生の学習材「かなを交えて書こう」では、まず硬筆によって漢字かな交じりの文章を整えるポイント（漢字とかなの大きさ・字間・行の中心）に気づき、それを確認するために毛筆課題「大きな白い鳥」を学ぶ。

大筆・小筆、さらに縦書き横書きとバリ

## 小西憲一

香川大学



【こにし けんいち】香川大学教育学部教授。専門は近代篆刻史。文字に対する美意識をもち、文字を書く楽しさを子どもたちに伝えられる指導者を育てたいと思っています。

エーシオンをもたせたのは、適宜選択して場面に応じた文字感覚を養うためである。場合によっては「白い鳥」だけを取りあげることでも可能である。

さらに毛筆を使用することで、点画の整え方・接し方や、かなの曲線表現の理解などを通じ、硬筆での書写技能を補強できるであろう。

『現代の書写』では、毛筆の穂先の通る位置を、朱墨や墨の濃淡でたびたび示している。毛筆での点画の形は、穂先の通る位置でほぼ決定される。特に、楷書の基本点画において、それぞれ穂先がどこを通るのか理解しておくことが、楷書のみならず、かなや行書の筆づかいのときにも必要である。

こうして毛筆によって深められた文字感覚を、再び硬筆に転移させることができ、初めて書写の目標は達成される。

## 「和音」から始めよう



1年「かなを交えて書こう 漢字とかな」大筆・小筆や縦書き・横書きとバリエーションをもたせ、場面に応じた文字感覚を養うことができる。

『現代の書写』一年生の毛筆の課題は「和音」から始まる。このことばは、以下の三つの条件により選ばれた。

①難易度が比較的 low 学習に入りやすいこと。例えば、つまずきやすい右払いがなく、画数が適度であるなど。

②教科書の学習の流れに沿って、二字がそれぞれ左右・上下の組み合わせから成り立っている語句であること。

③明るい印象のことばであること。

「和音」は、①②の条件をクリアし、さらに「高さの違うふたつ以上の音が、同時に響いた音」という本来の音楽用語としての意味から、調和・ハーモニーといった連想につながり、中学校での書写の始まりにふさわしいことばなのではないかと思う。

「和音」から始まる学びによって、指導者と学習者がともに豊かな文字生活を育てられることを願っている。



1年「ていねいに書こう 楷書」硬筆文字で気づき、毛筆で大きく書いて確かめることで、文字への理解はより深まる。

# 木村まり子

足立区立第十四中学校



〔きむら まりこ〕表現活動における生徒のもつセンスやパワーに感嘆しながら、それを計画的に伸ばす指導法を、日々楽しみながら模索中。

## 手書きの文字の表現力を知る ― 選択書写をとおして

「書写」で習得した知識・技能を生かしながら、手書きの文字によって自己を表現することの楽しさを存分に味わえる活動を、ダイナミックに展開できないものだろうか。中学校生活のしめくりに、過ぎし三年間に思いをはせ、自分の中にはぐくまれた思いをことばとして紡ぎだす。それを表現する手段の一つとして、手書きの文字は大きな力をもっている。さらに「ことば」や「文字」の深みを、仲間の文字を見、そこにこめられたメッセージを聞くことにより一層強く認識することも可能であろう。

『現代の書写』（二・三年）資料編の「さまざまな素材に書こう」は、異素材へのチャレンジを引き金に、「書きたい」「伝え合いたい」という欲求をおのずと生み出す、魅

- 力ある学習活動である。
- 具体的な学習の流れは次のように考えられる。
- 1 表現したいことばを手書きで  
体験と思いとことばをつなぎながら、表現のイメージをつくり上げる。
  - 2 書く素材を選ぶ  
身のまわりにあるさまざまな素材に目を向け、その中から自分の思いを表現するのに最も適したイメージをもつ素材を探す。
  - 3 第一次草稿をつくる  
書体・大きさ・配置などを考えて作品のラフスケッチをつくる。
  - 4 交流会をもつ  
ことばの紹介、その素材を選んだ理由などを、四、五名の仲間で発表し合い、互いに質問やアドバイスを行う。
  - 5 練習（第二次草稿）↓ 完成  
まずは半紙に練習をする。この際、机間指導として、字形やバランスを中心にアドバイスを行っていく。『現代の書写』の字形例や筆づかいのページの活用もできる。
  - 6 プレゼンテーション・鑑賞会  
「ショウアンドテル」の要領で作品を示し



2・3年「さまざまな素材に書こう」  
身のまわりのさまざまな素材を利用して、好きな文字やことばで表現する。素材と手書きの文字のコラボレーションを楽しむことのできる学習活動である。

平成18年度版  
「現代の国語」  
現代の書写  
教科書特集号  
Ⅲ

「国語科書写」の  
学びを創る

ながら、その素材やことばにこめた自分の思いを語っていく。身を乗り出すようにして仲間の発表を聴き、作品を見つめる学習者の眼差しは実に暖かい。「伝えたい」「聴きたい」思いが高まっていることが伝わってくる。自分と同じように他者にもいとおしむこと・もの・とき、そしてそれらへの思いというものがあることを実感する場となる。これは書写のみならず、国語にも共通する学習活動といえよう。

手書きの文字のもつ力を知ること、「書く」行為への意識を高めさせることは重要であり、そのことに計画的に取り組んでいく必要性を感じている。

# 筆記具の 持ち方を再考する

昨年度勤務校で、書道選択者を対象に、硬筆筆記具（以下「筆記具」）の持ち方に関するさまざまな調査を試みた。おおよそながら結果の予測はしていたものの、実際にその数値をまのあたりにして愕然としてしまった。「高校入学時まで鉛筆の持ち方を教えてもらったことがない」と答えた学習者が、全体の四割強に上るのである。さらには、望ましい持ち方で筆記具を把持できている学習者は二割ほどしかおらず、多種多様な持ち方が存在している。

望ましい持ち方では、筆記具の先端部が人差し指・親指・中指の三点で支持され、この三本の指と筆記具の軸との接触点を結んだ形が正三角形になる。このとき、軸の傾斜角度は、前方から見て二〇度程度、側

方から見て六〇度程度となる。これは、人差し指・親指・中指の三指が自由に機能し合えるといった、文字を書く際の要件に基づく持ち方である。一方、三指が相互に機能できない持ち方——例えば、学習者の中に多く見られる人差し指が反り返った持ち方では、指を硬直化させ、文字を書く際に必要な指の伸縮運動を困難にしてしまう。実際に、三指が自由に機能しない持ち

方の学習者が書いた文字を分析してみると、日本の文字の特性であるはねや払い、折れや丸みの書き方に大きなダメージが生じることが明らかになった。高校生こうした実状に鑑み、従来疎かにしがちだった筆記具の持ち方指導を見直す必要性を感じている。中学校での書写学習を始めるにあたり、まずは、学習者それぞれの筆記具の持ち方について、改めて考えてみてほしい。中学校の国語科書写において基礎・基本となる学習内容が大切に扱われることを期待したい。



## 1年「さあ始めよう」

写真資料をきっかけに筆記具の望ましい持ち方を考える。「筆記具の先端部が人差し指・親指・中指の三点で支持され、この三本の指と筆記具の軸との接触点を結んだ形が正三角形になる」といった具体的な例示もある。

『現代の書写』の「さあ始めよう」（一年）では、各種写真資料をきっかけに日常での持ち方を改めて自覚し、望ましい持ち方について考えることをねらいとしている。学習者が自ら考え、気づいたことを具体的なことばにしてみる。そのうえで理解できた望ましい持ち方を、今度は自分自身のものでして定着させていく。このように、考えることが学習の理解と喜びの原動力となる授業を目指したい。

「気づき」で始まる学習によって、書写技能のみならず、国語科、ひいては日常生活に生きてはたらく力を育成していきたいものである。

## 小林比出代

松本深志高等学校



【こばやし ひでよ】文字を書くこと及びその教育について、さまざまな角度から研究・実践を試みる。青山杉雨記念賞第4回奨励賞受賞。

# 基本コンセプトと 教科書のしくみ

平成18年度版  
『現代の書写』  
教科書特集号  
Ⅲ

「国語科書写」の  
学びを創る

## 基本コンセプト

硬筆から入り、毛筆で確かめ、硬筆で生活にひらく。  
文字の原理を発見し、学び合いをとおして、  
「自分の字」を育てる。  
国語の中で学習でき、「ことばの学び」をささえる。

生徒の文字の成長を保障できる教科書…

国語科の「書写」という性格を明確にした教科書…

現在の時間数できちんと教えさされる教科書…

『現代の国語』と連携した書写教科書…

『現代の書写』はこうしたご要望にこたえ、

新たなリテラシーにつながる「文字の学び」を  
めざして生まれた書写教科書です。

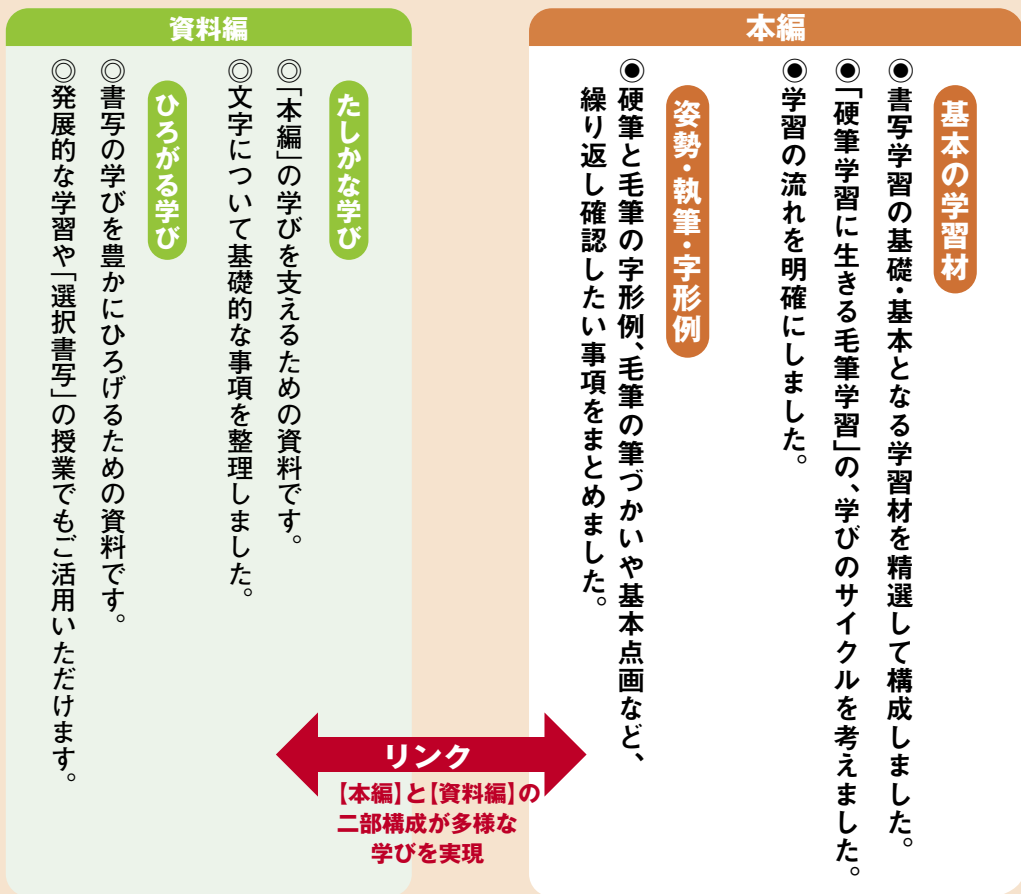
『現代の書写』は、学習者自らの「気づき」による主体的な学びを  
大切に行っています。また、『現代の国語』との連携により、  
より効果的な文字の学びを可能にしました。  
さらに、充実したサポートプログラムをご提供し、  
学校生活・日常生活に生きる書写をめざしています。



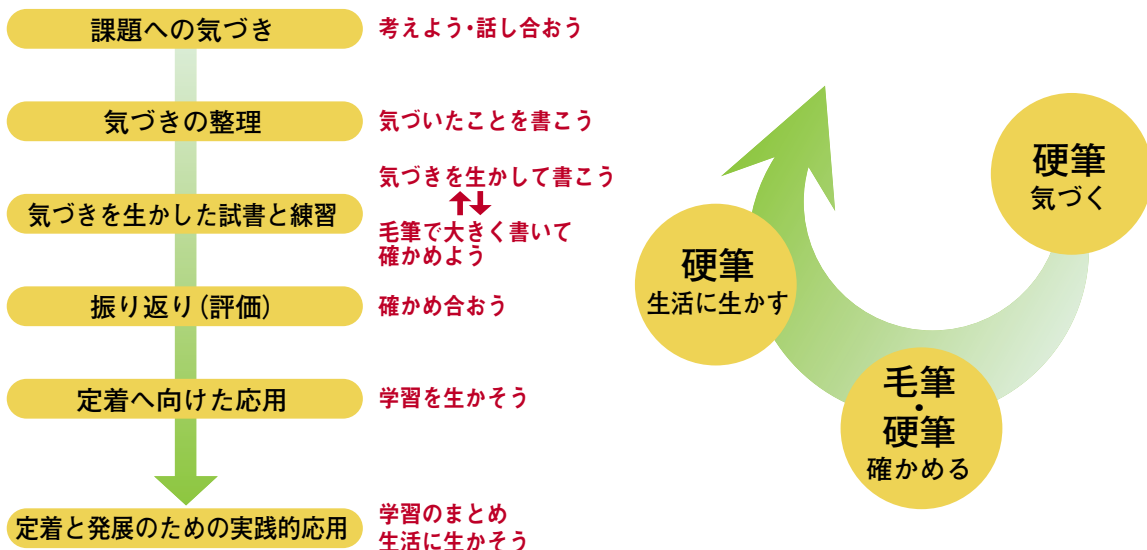
平成18年度版『現代の書写』

平成18年度版『現代の国語』

## 『現代の書写』のしくみ



## 『現代の書写』学びのサイクル



Ⓐ＝基礎的な理論を学びたいときに  
Ⓑ＝広く関連情報を得たいときに  
Ⓒ＝指導改善のヒントがほしいときに  
\*定価は2005年3月現在のもの(税込)です。



全国大学書写書道教育学会  
『新編書写指導』  
(萱原書房 現在品切れ中)



市毛勝雄他  
『楽しい国語科授業アイデア  
集成 30 言語事項【10】  
楽しい書写の指導』  
(明治図書出版 2,345円 1996年)

## 授業の構想から 指導の工夫まで

Ⓐ Ⓒ

### ここが魅力

文字を書くことの意義、書写教育の目標・内容に始まって、指導展開、評価の実際、さらには具体的な指導内容の解説までがわかりやすく示されています。指導必携といえる一冊です。

### 内容紹介

基礎的・基本的な内容、子どもの書写の意欲を大切にする学習指導の工夫に、貴重な示唆を与えてくれる本です。何を基本的な内容としておさえ、書く意欲を引き出すためにどういうことを扱えばよいか、パソコン時代の新しい書写の授業を目指す指導改善に関するヒントがここにあります。

本書の内容は、次のように構成されています。

#### 第一編 授業理論編

年間指導計画の要点と事例、授業の構想、評価の工夫など。

#### 第二編 授業実践編

授業づくりの要点、授業研究の内容、評価の実際、教材研究など。

#### 第三編 指導内容編

姿勢と筆記具の使い方、仮名、楷書、行書、実用的な書式。

#### 第四編 資料編

漢字の字体、筆写の楷書、仮名の字源、平仮名毛筆文字の参考例。

この構成からも書写指導の基本を身につけるための必携書であることがわかつています。

## 楽しい授業のための アイデア集成

Ⓑ Ⓒ

### ここが魅力

楽しい書写授業のアイデアの実際を短時間のうちに理解することができます。書写嫌いの子どもを変える、魅力的な授業づくりヒント集の役割を果たしてくれるのではないのでしょうか。

### 内容紹介

執筆者のほとんどが小学校の先生方ですので、内容によって、中学校の場合は多少修正が必要になります。しかし、アイデアとしては小学校と同様に、子どもの関心をとらえるものと思われます。

例えば筆順の指導に関するアイデア。ここでは、筆順の原則をしっかりと教え、これにネーミングをすることで習熟を図ろうとしています。

中学生になっても、筆順が把握されておらず、「木」の3画めを右から書いたり、「光」の上半分を左から順に書いたりする例が珍しくありません。

個に応じたきめ細かな指導が求められているのです。こうした子どもに基本を把握させることは、まさに教師の指導方法の工夫に大きく依存しているといえます。

基本が身につけていない子ども、書写に抵抗感をもつ子どもに対する指導のポイントを知るための本として、あえて小学生向けのアイデア集成である本書を紹介してみました。もちろん内容は中学生向きにすると、そう考えると、活用しなくなるワークシートや練習カードが数多く見出されるのではないのでしょうか。

平成18年度版  
『現代の国語』  
『現代の書写』  
教科書特集号  
Ⅲ

「国語科書写」の  
学びを創る



# 「国語科書写」への理解を深めるために

## 参考図書のご紹介



相川政行ほか監修  
『書の手帖』  
(小学館 2,243円 1991年)



文部省  
『中学校国語指導資料  
第3集 書写の学習指導』  
(東洋館出版社 現在品切れ中)

## 書の名品鑑賞と書道入門

① ②

### ここが魅力

書道・書写の教育の基盤にはどのようなことがあるか、教師としての教養と書の楽しみを伝えてくれる本です。

### 内容紹介

この本を読むことによって、書の魅力、書写の指導を通じて子どもに伝えたいものが理解されます。とにかく楽しい。わかりやすい。書写の指導にあたるものとして、この本の内容にふれておくことには意味があると思います。授業展開の工夫のとりえ方が広がり、奥行きが出るに違いありません。

全体は

#### 1章 書体とその名品

楷書、行書、草書、和様漢字、仮名などの書体についての解説、名品の紹介、さらにその習い方までが盛り込まれています。

#### 2章 文房四宝

筆、墨、硯、紙、その他の文房具についての基礎知識が得られます。

#### 3章 作品の主な形態

半切、聯落、聯、長条幅、短冊、色紙、懐紙などについて解説されます。選択的な学習や発展的な学習を企画するときに役立つ情報が盛り込まれています。

というように、構成されています。

教師としての教養を高め、同時に書写・書道教育の意味を考えさせてくれる本です。

## 書写指導の基本が把握できる

③ ④

### ここが魅力

書写に関する指導の進め方、指導のポイント、書き方、用具に関する事など、指導についての基礎が、一読することによって手にできます。

### 内容紹介

私たちは、一般的に書写の指導は大切であり、書写にかかわる学習活動を授業で大切にしないと考えています。指導にあたって、「正しく書こうね」「整えて書くことが大事だよ」などと生徒に声をかけています。しかし、書写の指導ではどのような力をどこまでつけようとしているのか、厳密にとらえて指導に位置づけるまでにはいたっていないのではないのでしょうか。

「書写への意欲を喚起し、書写能力を高めるためにもっとも大切なのは常に指導方法を工夫することである。」

本書は、この考えに基づいて、指導に関する基礎的な事柄、指導のための基本的な留意事項、そして指導効果を高めるための工夫のあり方が平易に記述されます。

例えば、指導の工夫については、一斉指導の場合、グループ指導の場合、個別指導の場合について、どの教室においても役立つ情報が提出されています。

書写の指導に若干の不安をもっておられる方には、示範の方法やその際のポイントに関する記述などは特に貴重な情報といえそうです。

# 1 古典に親しむための 三つの試み

中学校の古典教育は、入門期ということもあって、指導が難しいといわれている。しかし、古語ということばの壁をなんとかして乗り越えて、学習者が古典作品と親しむことをねらいとする実践が積み重ねられてきた。

こうした実践は、大きくいえば以下の三種類の試みとして集約できる。

- ① 訳文を積極的に授業に取り入れることで古典世界に向き合いやすくし、学習材の内容を深めることを授業の中心に置く試み。
- ② 調べ学習や物づくりを通して古典世界に関する知識を広げて、学習材の内容理解に活かそうとする試み。
- ③ 朗読や群読、劇化など音声言語活動を作品との関係を結ぶ足がかりにし、活動における工夫と学習材の内容理解を関係づけて行う試み。

これらに共通するのは、古典を読んで

いくための下地（能力）を身につける学習（読みのレディネス＝読むための準備）に配慮しているということであろう。

「ことばの壁」がある学習材に対してこういった読

みのレディネスを施していくこ

とで、より多くの学習者が古典のおもしろさを感じることが可能になると考えられる。

しかし、読みのレディネスは、あくまでも古典学習材を実際に「読む」学習の準備である。現実的にはここに時間をかける余裕はないのが実情であろう。

私は、十分に時間をかければ、中学生にも充実した古典指導を行うことができると考えている。

しかし、その時間的制約の中で、いかに古典学習を充実したものとして構想していくことができるか、という点に難しさが存在しているのである。

教室で  
読む③



## 古人との対話を図る古典の授業

—現代とのつながりの重視—

松友一雄 福井大学



[まつとも かずお] 国語学力の形成過程や定着のあり様を明らかにすることで、より効果的な国語学習を模索している。また教員研修のe-ラーニング化、対話型授業支援システムの開発を進めている。(URL : <http://www.lesis-k.com>)

## 2 「読むこと」の領域への位置づけ

古典の学習を通して中学生に感じさせたい「おもしろさ」とは、いったいなんなのであろうか。

古文や漢文を音読したときに感じる現代のことばとのリズムの違いは、確かに古典独特のものとして「おもしろさ」を感じ取ることができる。このリズムの「おもしろさ」も、書かれている内容への理解が深まることで、相乗的に感じ取れるようになるものである。ここでもレディネスは重要である。

それでは、レディネスを時間的に軽減し、「読む学習」を充実させるためには、どうすればよいのだろうか。

まず思い浮かぶのは、訳文を積極的に用いる方法であろう。しかしながら、現代語になおされた古典学習材は、学習者の側で現代文学習材との相対化にさらされてしまうのである。ゆえに指導者は、現代語で書かれた小説学習材や随筆学習材と比較して、古典学習材の何がおもしろく、どこに学ぶ意義があるのかという

視点で学習材分析を行う必要がある。

こうした視点に立つならば、読みの学習材としての古典学習材の可能性が明らかとなり、訳文を効果的に用いることが可能となる。

## 3 古人との対話

『枕草子』、『徒然草』といった随筆学習材を読んでいると、清少納言や兼好法師のものにとらえ方に斬新さを感じる点がある。もともと、時間的に向こうの方が先なのだから「斬新さ」ではないのだが。

古典学習材の内容理解は、古人の認識に迫り、そこから現代の私たちのもつ認識を相対化することに一つの目標があるが、「昔はこうだった」、「今はこうだ」といった現代と古典世界との単純な相対化がもたらすものは少ない。

現代社会に目が向いてくる時期である中学生だからこそ、古典学習材を学ぶことで時間を越えた認識の広がり丁寧な学ばせたい。

下に示した四つの項目は、認識の広が

りのステップを表しているが、それは、発達段階ではない。むしろ、古典作品を読むときに起こる思考の道筋であり、学習過程でもある。

そのように考えたとき、最も重要なのは②の学習であろう。古典作品の中に現代とのつながりを発見する学習が起点となることで、古典学習材を通して古人との対話が深まっていくのではないだろうか。そして、この学びこそ、レディネスの時間を軽減し「読む学習」の充実を可能にしてくれると考える。

### 古典学習による認識の広がり

- ① 古典世界の知識を学び、古典世界をイメージする。
- ② 古典世界と現代社会とのつながりを学ぶ。
- ③ 古典世界と現代社会との相対化を進め、その違いを知る。
- ④ 現代社会の特徴をとらえる。

## 4 『おくのほそ道』平泉(3年)の場合

『現代の国語』は、三年生の学習材として『おくのほそ道』から「月日は」と「平泉」の部分を取りあげている。

中学校三年生にもなると、古文学習材の基本的な学習もほぼ終わっているの




平泉の歴史をたどる。平泉は、大正11年に「平泉町」として設置された。平泉は、大正11年に「平泉町」として設置された。平泉は、大正11年に「平泉町」として設置された。

『おくのほそ道』(3年) 自然と人、その移り変わりの速さの違いに芭蕉は思いを巡らせる。芭蕉の目に映っていた景色を考えると、読みを深める観点を獲得できる。

で、本格的に「読む学習」を進めていきたい。特に「平泉」は、芭蕉の時空を越えた視点で随所にみられ、読み応えがある。過去と現在の様子を相対化しながら、自然の流れと人の移り変わりの速さの違いに思いを巡らせる芭蕉の文章は、中学校完成期の学習材としては適当であろう。

さて、この学習材は、授業実践も多く積み重ねられている。新しい試みよりも、「読みの観点」としてこだわりたい箇所を提案する方が意義のあることと思う。そこで、今回は芭蕉の目にこだわって読むことを提案したい。

この学習材において、芭蕉の目にはどのような景色が映っているのだろうか。筆者は、かつて、授業で生徒たちにその景色を描かせたことがあった。原文に即していえば、「高館に登った芭蕉の眼前にあるのはいったいどのような景色だったのか」という問いであった。

本文を読み進めていく中で、結局、「田野」と「山」と「河」と「草むら」しか見えなかっただろうという結論に至った。「大門の跡」や「和泉が城跡」が、当時どのような形で残っていたのかわからないが、「功名一時の草むらとなる」などの表現から、判別が不可能な状況だ

つたろう、という意見が大勢を占めた。

何も無い野原を見て、「時の移るまで涙を落とし」た芭蕉、いったいどうしてそんなことができるのか、という点が最後の課題であった。「歴史的知識が十分にあったから」という意見が多かった中で、「当時活躍した人々に対する思い入れ、共感から」といった考えに行き着いた。これは、「なぜ涙を落としたのか」という問の答えとして「自然に対する人為のはかなさ」という答えを導くことは、視点が少し違うように思う。

いずれにせよ、何も無い景色を眺めながら、これだけイメージを広げ、その感動を表現する芭蕉の旅のあり方には現代人として斬新なものを感じる。

後半の中尊寺の記述は、前半とは対照的に、実存するものを描いている。その淡々とした語り口の中に、「すでに退廃空虚の草むらとなるべきをくししばらく千歳の記念とはなれり」という記述をみると芭蕉の複雑な気持ちがうかがえる。

消え去ってしまった景色を思い描くことの方が、残された史跡を目の当たりにするよりも、旅としてははるかにおもしろいという考え方は、中学生にとっても斬新なものであろう。

# 受容された作品を

## 5 読み比べる

— 漢詩(2年)の場合

ことばの壁を乗り越えて、学習材の読み取りに時間をかけようとしても、漢詩のように凝縮された表現性をもつ学習材の場合、その方法が難しい。訳者の違いによる解釈の幅が大きいため、注意深く現代語訳を提示していかないと、一つの読みに規定されてしまい、多様な鑑賞を妨げてしまう危険があるからである。

どうしたら漢詩の授業に、多様な作品鑑賞を取り入れることができるだろうか。

最近、多くの人々が、古典作品をそれぞれ独自に解釈・鑑賞した文章をインターネット上に公開するようになってきた。専門家から素人まで、老若男女を問わず、実に多くの人々が作品の解釈をしているのに出会う。

漢詩などは特にその傾向が強く、これまで、詩人が日本語の詩に作り替えたものか、研究者による緻密な解釈しか見あたらず、どちらも入門期の中学生にはやや縁遠いものでしかなかった。そのため、「解釈や鑑賞文を読み比べる学習」

などは思いもつかなかった。

しかし、インターネット上には多様な解釈が、それぞれの思い入れや人生と重ねられて表現されているのである。以下に一例をあげる。

芭蕉の「おくのほそ道」に、国敗れて山河あり、城春にして草青みたり」とある。芭蕉は旅にも杜甫の詩集を携えていたと言われるが、「唐詩選」のことではなからうか。この詩は杜甫の代表的な、五言律詩の傑作です。特に首聯の二句はよく知られ、この句だけでもよく口誦さまれている。人の世に、争い興亡は絶えないが、自然は何時の世も変わらず美しい。先の大戦で荒廃を体験した私達も、この杜甫の「国敗れて山河在り」はひとしお身にしみ、感慨深いものがあり、千二百年以上経た今でも新鮮さを感じる。

『趣味の漢詩』 <http://bun.dokidoki.ne.jp/users/tokiwa/kansi.html>

「漢詩なんてなんのために勉強するのか」といった素朴な疑問に対して、どれだけ多くの現代人が、自分なりに鑑賞し、楽しんで役に立てたりしているかを知りたい機会にもなる。

「春暁」や「春望」などの世界をベース

### 漢詩の世界

にして、自分で小説を書いている若い人たちも数多く見受けられる。

現代文化の中にとけ込んだ漢詩の世界を、自由に楽しく感じていく学習が、漢詩に対する中学生の姿勢を柔軟にし、親しみをもって漢詩とつきあっていくことがつながると思う。

『漢詩』 漢詩は、さまざまな解釈・鑑賞文がインターネット上に公開されている。これを取り入れることで、現代文化の中に溶けこむ古典の世界を感じることができる。



# ディスコース

*discourse* [英] 講演・講話・談話・談論・音声言語による伝達

「ディスコース」は大変広い意味内容をもっている。話をするという意味のフランス語 *discours* から「ディスクール」とも言われる。主に音声言語に属する、会話、会談、談話、話法、講演、演説などがディスコースとされるが、他に、論文自体を指す場合もある。また、あることばや言語行為が、それが語られた、あるいは行われたコンテキスト（脈絡）の中で、何を意味しており、またなぜそれを意味するのかを分析するための概念としても使われている。つまり、あることばに包括されている意味・イメージと、その原因となるメカニズムやプロセスを検討することもディスコースなのである。

したがって、ディスコースは一般には、言語学や日本語学の世界では「談話」、物語論や文体論では研究対象としての「物語・文体」を指し、さらに、例えば「異文化理解のディスコース」というような主張やイデオロギーをも含んだ、社会的・文化的なコンテキストとして、言語行為の内部構造を研究することにまで、その意味対象がひろがるのである。ディスコースを単なる談話分析に押し込めず、言語・非言語を統合したコミュニケーションや認知にかかわる相互行為として新たな視座から捉え直すことがたいせつになってきている。

もっと知りたいときは…

ジョン＝ガンバース 他著  
井上逸兵 他 翻訳  
【認知と相互行為の  
社会言語学—ディス  
コース—ストラテジー】  
2004年 松柏社

## カタカナ語

3

ユニバーサルデザイン（以下、UD）とは、全ての人にとって使いやすいよう意図してつくられた製品や情報、環境などのデザインのことである。これは、①誰にでも使いやすく公平に利用できる、②使用の際の自由度が高い、③使用方法が簡単ですぐに理解できる、④必要な情報がすぐに理解できる、⑤ミスや危険につながらない、⑥少ない力でもらくに使用できる、⑦使いやすいサイズや規模、の7つの原則に基づいている。

もっと知りたいときは…

日経デザイン編集  
・中川聡  
【ユニバーサル  
デザインの教科書】  
2002年 日経BP社

「バリアフリー」が障害や障害者の視点を中心として、「障害があること」を切り離せない概念であるのに対して、UDは、ユニバーサル（＝普遍的）という語が示すとおり、障害の有無に関わらず、より広く、全ての人を対象とした考え方となっている。今、学校教育においては、心身障害者教育から特別支援教育への移行が話題になりつつあるが、基本コンセプトは「一人一人のニーズに応じた教育」である。これまでの心身障害学級や養護学校と、通常の学級との違いを「バリアフリー」的に解消するのではなく、「ユニバーサルデザイン」として再構築しようというものである。学習者の様々な実態に応じて、柔軟な対応をする指導が「UD」の教育であると言えるだろう。

# ユニバーサルデザイン(ユーディー)

*UD(Universal Design)* [英] 共用品・共用サービス

# コーチング

coaching [英] 指導・訓練

スポーツのコーチというのは耳慣れているが、その coach とは少し違うニュアンスを持つのが、コーチングという考え方である。コーチングは、目標達成や自己実現のために、必要なスキルや知識を身につけることを目指して、双方向型のコミュニケーション機能を大切にする指導者の行う「行為」のことである。指導者は、信頼関係に基づき、目的に応じて自己肯定的な問題解決の方法やものの見方や考え方の見直しによる現状克服の方向性を示す。ティーチングが「教え込むこと」であるのに対し、コーチングは「可能性を引き出すこと」ともいえるだろう。

今後の学習活動にはこのようなコーチングの発想を取り入れることが求められる。コーチングにおいては、①相手の可能性を信じること。②成長や進歩を認め、評価すること。③任せて支えること。④話をする中で解決策を見いだしていくこと（オートクライン）。⑤過去を見つめるカウンセリングではなく、未来に向かうコンサルティングであること。⑥よく聞き、質問をすること。などが必要であるとされている。促進者（ファシリテーター）としてのコーチということになる。コーチングの唯一の前提は「自ら変わろうとする気力」があるかどうかである。

もっと知りたいときは…

ローラ＝  
ウィットワース 他著、  
CTI ジャパン 翻訳  
『コーチング・バイブル』  
2002年 東洋経済新報社

もっと知りたいときは…

米戸靖彦  
『最新やさしくわかる  
ISO9001』  
2003年 技術評論社

ISOは、国際標準となる工業規格の作成・制定、および規格適合の認証を行っている国際機関(1947年設立)である。ただ、実際には機関そのものよりも、「規格」を指す呼称として使われることが多い。日本では、「ISO9000シリーズ」(品質管理システムと品質保証の国際規格)と、「ISO14000シリーズ」(環境マネジメントシステムの国際規格)が有名である。

学校現場では、環境問題に積極的な教育委員会や学校がISO14001取得へ取り組みを進めている。また、ISO9001については、2003年に盛岡中央高校が日本の高等学校としては初めて取得したが、学校などの教育機関においても、学校経営に基づいて、運営をマニュアル化したり、外部監査を迎えたりしながら、目標を明確に数値化し、いわゆる「品質管理・品質保証」をしている。同校の富澤正一校長によれば、職員一人ひとりの責任と権限を明らかにすること、文書のマニュアル化による合理化、内部・外部で監査を行い透明な経営を行うこと等をISO取得の目的としているという。教育機関では、数値化できる目標を明確にすることにより、具体的な学校経営と評価の一体化が図れるという点において、参考になる部分も多いと考えられる。

# アイエスオー(アイソ・イソ)

ISO(International Organization for Standardization) [英] 国際標準化機構

情報ライブラリー

ちょっと  
気になる

前から気になっていた、  
最近よく目にする、  
そんな「知りたい」  
カタカナ語を  
わかりやすく解説。  
もっと詳しく知るための  
文献もご紹介します。

# 現代の国語



平成18年度版  
『現代の国語』  
『現代の書写』

# SNP

サポート・ネットワーク・プログラム  
学習指導書  
・教材

## 学習指導書

### 1 学習指導のために1・2・3

(各8分冊セット)

- ①② 学習指導と解説 本編 (上・下)  
『現代の国語』本編の全学習材について、授業研究・学習材研究に役立つ情報をもたらさず収録。
- ③ 学習指導と解説 資料編
- ④ 学習指導と解説 言語事項ノート
- ⑤ 学習指導事例集  
『学習指導と解説』の中の学習実践分野に焦点をあてた、多角的で多様な実践事例集。
- ⑥ テスト問題例集・発問例集  
学習材に即した豊富な問題例と、「ねらい」や「予想される解答例」「留意点」などを付した発問例を収録。
- ⑦ コピー用学習材集  
各領域の学習材について、ワークシートや関連する図版・データを豊富に集めた補足・発展資料集。
- ⑧ デジタル情報 CD-ROM  
教科書原文やテスト問題例ほか、お手元のパソコンでそのまま読み込んで活用できるデータ集。

### 2 「話す・聞く」学習指導AV資料

「話すこと・聞くこと」領域の学習材に対応した視聴覚素材を収録。

### 3 学習指導書 総説編

カリキュラム開発のために

『現代の国語』の編集の方針、年間学習指導計画案などカリキュラム開発のための資料。

### 4 「読むこと」学習材の研究 1・2・3

「読むこと」領域のすべての学習材について、作品を「読む」という視点から文責・研究した資料。

### 5 学習指導資料 (4分冊セット)

- ① 詩編
  - ② 短歌・俳句編
  - ③ 古典編
  - ④ 和歌編
- 韻文・古典学習材の解釈と鑑賞、展開例、板書例などを収録。

### 6 朗読 CD 1・2・3

「読むこと」領域のすべての学習材を、正確・多彩な朗読で録音した音声素材集。

### 7 読書の森へ CD-ROM

補充学習材や読書活動についてのデータを収録。

## 指導用教材

### 1 ピクチャーカード (A2判・100枚)

『現代の国語』の学習材のイメージをひろげる写真や絵を、大判のカードにした資料集。裏面には、図版の詳しい解説とともに授業展開に沿った活用法などを記載。

### 2 学習材ビデオ (6巻まで刊行中)

鑑賞だけでなく、授業での活用を考えたビデオ教材。ていねいな解説書と具体的な学習指導事例が付属。

### ① 自分を表現するスピーチとインタビュー

### ② 古文入門ー言語編

### ③ この小さな地球の上で

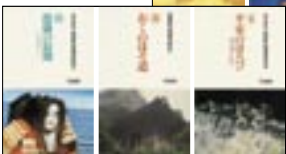
### ④ 平家のほろびー壇の浦の合戦

### ⑤ おくのほそ道

### ⑥ 敦盛の最期ー平家物語

### 3 サポートDVD (予定)

『壁に残された伝言』『メディア・リテラシー』ほか





## 生徒用教材

- 1 **ワークブック1・2・3**  
 予習・自主学習・学習のまとめや整理に役立つ「必携学習ノート」。
- 2 **漢字・語句学習ノート1・2・3**  
 漢字を完全マスターし、語彙力をつけることを目指したドリル形式の学習ノート。
- 3 **文法学習ノート**  
 1年から3年までの「文法の窓」「文法のまとめ」の学習に沿って活用できるワークブック。
- 4 **実力アップ問題集1・2・3**  
 確実に国語の学力を身につけるための教科書完全準拠版問題集。
- 5 **教科書ガイド1・2・3**  
 学習材のねらいや学習のポイントがよくわかる解説と考え方の指導をまとめた資料集。
- 6 **ステップ式常用漢字ドリル**  
 すべての常用漢字を、覚えて使うことによって確実に習得できる積み上げ式のドリル。



## ピクチャーカードの内容(例)

### 1年

- ・クジラが餌を取るようす
- ・シロナガスクジラ (「クジラの飲み水」)
- ・蓬萊の玉の枝 ・竜のくびの玉
- ・富士山 (「わたしたちと古典一かぐや姫の物語」)
- ・熱海軽便鉄道 (「トロッコ」)

### 2年

- ・ベロニカ (ルオー)  
 (「わたしが一番きれいだったとき」)
- ・「春望」の風景 ・黄鶴楼 (「漢詩の世界」)
- ・現在のシラクスの町 (「走れメロス」)

### 3年

- ・鮫鱧の吊し切り・俳画 (生徒作品) (「俳句の世界」)
- ・ゲルの構造 ・内モンゴルの草原
- ・世界言語地図 (「『ありがとう』と言わない重さ」)
- ・紹興の街 ・香炉と燭台 ・纏足 (「故郷」)

## 現代の書写



### 学習指導書 (各3分冊セット)

#### ① 学習指導と解説

『現代の書写』の全学習材について、授業研究・学習材研究に役立つ情報をもらさず収録。

#### ② 指導ワークシート集 (はぎ取り式)

教科書にそった硬筆・毛筆のワークシートや、補足資料プリントを収録。

#### ③ 指導用CD-ROM (執筆実技映像・指導案のテキストほか)

学習材の実技を収録した映像や指導案のテキストデータなどを収録した資料集。

[やない だし] 1960年生  
まれ。國學院大學哲学科卒  
業。元日本教育新聞社記者。



## 若返りする 教育現場

教育ジャーナリスト  
矢内 忠

最近、ちょっと驚くような話を聞いた。それは単に筆者の取材不足に過ぎないし、問題に直面している先生がたにとっては、知っているも何もないわけだが、地域差もあることなので書き留めておきたい。

東京都内の学校では、教員の定年退職による自然減を補う新規採用数がこの数年急増し、二〇〇四年度は小・中・高合わせて二千人を超えた。このことが学校現場の「若返り」をもたらすというのは当然の理だが、問題はその進み具合である。感覚的には相当な加速度を伴って進んでいるというのだ。

「私の知っているケースでは、校内の平均年齢が三十六歳まで一気に下がったという小学校があります」と東京都東久留米市内の小学校の校長は語る。

数年前まで平均五十のラインに届くかどうか、といった話が一般的だったはずなのだ。「自分の勤務校でも四分の一が過去四年間に新規採用された教員です」と校長。

若返ってよかったじゃないですか、この前までどこの病院が具合がいいとか、職員室の話題がそんなのばかりだとボヤいてたじゃないですか：などと軽口が叩けるような話ではないらしい。ちょっと見には、授業補助のボランティアで来ているような大学生風の若者が、よく見ると今年配属された教員だったりする、というのだ。

「彼らをいかに育てていくか。これは大きな問題ですよ」と、校長は表情を引き締める。

「まず、『授業力』、そして『社会性』。何も若手教員の問題とは限りませんが、それらに対する社会の要求水準はどんどん厳しくなっているわけでしょう。」と、くだんの校長。

ここは当面、ベテラン勢にハッスルしてもらうしかないのではないか。でも大変そうだな。筆者にも経験があるが、世代間のギャップというのは案外しんどいものがありますからね。

### 編集後記

●自分の字について意識し始めるのは、いつのころからでしょうか。

手紙を書くというような、教室の外で字を書く必要に迫られたときに、意識化することが多いのではないかと思います。「自分の文字をよりよくしたい」というのは、だれしもがもつ思いではないでしょうか。しかし、自分の文字のどこを、どうすればよくなるのか、具体的な方法は自覚できないことが多いように思います。

三省堂が初めて刊行する書写教科書「現代の書写」。実は、この教科書でもう一度書写をやり直したいと思っている編集者です。

(太郎)

三省堂教育  
「手紙の字」 第10号

二〇〇五年五月一〇日発行

定価 一〇〇円 (本体九六円)

編集・発行人 八幡 統厚

〔発行所〕 株式会社 三省堂

〒一〇一八三七

東京都千代田区三崎町二二二一四

TEL 〇三(三三三) 九四二七〔編集

振替 東京 〇〇一六一五―五四三〇〇

〔印刷所〕 泰成印刷株式会社

東京都墨田区両国三一一二



# 「絵本で比較言語学のお勉強をした」大学生



『ぶちぶち』『ちもちも』（ひろかわさえこ・さく アリス館・発行）各202ミリ×155ミリ 24ページ 各840円（税込み）



## 後路好章

〔うしろ よしあき〕アリス館編集長。俳句をたしなむ。俳号「高笑」。「読み語りの出前」にいて、ながながと俳句談義をしてしまった失敗あまた。

読み語りの出前は、大学からの注文もある。持参する絵本の定番は『ぶちぶち』と『ちもちも』。幼児向きの「ことばあそび」絵本である。学生たちに表紙を見せると、一様に、「かわいいー！」といつてくれる。

『ぶちぶち』は、擬態語だけで展開する「ぶちぶち君」のぼうけん絵本だ。大団円は、かえるになめられて、

「ころころころころころ、」と、ころがる場面。なにせ七〇回もころがるものだから、途中で息が切れて

「ああ、しんどー！」なんて、アドリブを入れながら読むことになる。

『ちもちも』は擬態語の中でも、同じことばを重ねてできることば《畳語（じょうご）》だけの展開である。

「ゆらゆら びくびく ちもちも どきどき、、、」

学生たちと、たつぷりことばあそびを楽しんだあとは、比較言語学のお勉強になる。

「翻訳絵本で、このような擬態語の絵本を見たことありますか？」

学生たちは、目を宙に浮かせて考えながら、自信なげに首を横に振る。

「じつは欧米の言語に、擬態語は、ほとんど存在しないといつていいのです」へえー、うそー。ことばにならない複雑なざわめきが始まる。

「『笑う』ということばを例にとつて考えてみましょう」

「笑う」という動詞に、「フフン、クスクス クック」などの擬態語をかぶせて表現するのが日本語。それに対し、英語は、「sneer」（フフンと笑う）、「chuckle」（クスクス笑う）、「bubble」（クックと笑う）、など擬態語を含んだ動詞で表現する。

だから、英語では「鬼がニカッと笑う」というような微妙な表現はできないのだ。

「新しい擬態語を、いかようにも作ることが出来る日本語は、バリエーション豊かな表現が自在にできるのです。この二冊の絵本は、日本語の文化そのものなんです」

学生たちに、単に「かわいいー！」と思われていた二冊の絵本が、突然「すっごーいー！」絵本に变身する。

たかが絵本、されど絵本なのである。

SNP ウェブサイト「ことばと学びの宇宙」

教科書新時代 | Web ガイダンス

# 開幕! Next Stage へ



1994年以來10年間、多くの方々とともに「対話する教科書」づくりをすすめてまいりました。さて、このたび新版(平成18年度版)教科書の発行にあたり、みなさまとの対話と交流をさらに深めるため、新たに『現代の国語』『現代の書写』Web ガイダンス」をスタートいたしました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

## 新たなリテラシーにつながる ことばの学びをめざして

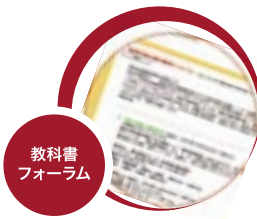


Triangle Column  
トライアングル  
コラム

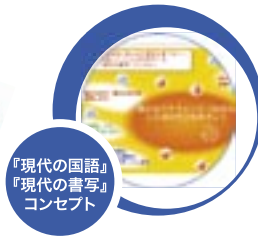
尾木 和英  
中洩 正堯  
篠田 信司



評価についての  
考え方と  
資料編活用の  
アイデア



教科書  
フォーラム



『現代の国語』  
『現代の書写』  
コンセプト



筆者・作者からの  
直筆メッセージ  
ポスター

教科書新時代 Webガイダンスは  
SNPウェブサイト「ことばと学びの宇宙」からアクセス  
<http://tb.sanseido.co.jp/kokugo/>

テキストから  
プログラムへ